

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	有限会社 介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	三重県津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;ligvosyCd=2470500675-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;ligvosyCd=2470500675-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年11月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍も落ち着いてきており、以前のように、近くの料理店やスーパーへの買い物に出かけたり季節の花々を見に出かけたりと、制限されていた外出を楽しめるようになってきている。また、個人のレベルに応じたリハビリに力を入れており、本人と職員が一緒にリハビリをして、残存機能、体力の維持向上に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2000年介護保険法のスタートと同時に開設された事業所である。当初から「年をとっても地域の中でゆったりと生活できるように共に支え合っていく」の理念のもと、高齢者福祉や地域福祉へと長年情熱を注いで来た。地域に根付き現在も地域と密着した地元での活動拠点となっている。何よりも利用者主体の方針で、生活に即したリハビリを継続して生活の質や向上を目指したケアにより、利用者の表情も明るく意欲が伺われる。事業所の目指す方針や思いは2ユニット2名の新任にも浸透し、今後更に高めて行けるよう職員とも一体と成って、介護支援サービスの向上を目指している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「年をとっても地域の中でゆったりと生活ができるように共に支えあっていく」という理念をもとに、役職関係なく意見交換を行い、サービスの質の向上を目指している。	地域の自治会長や敬老会は、現在でも利用者と繋がりが良好であり、地域と共に支え合う理念が実践に繋がっている姿である。職員間も自由に意見を言い合える関係であり、開設当初からの理念が地域や事業所に根付いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に加盟しており、地域のイベント等に入居者も参加できるよう、自治体と交流がある。	地域との繋がりは強く安全確保の為、自治会長らが23時に夜廻りされ、事業所の安心な暮らしにも繋がっている。地域の夏祭りで子供神輿が事業所に立ち寄り、利用者との交流が出来たり、認知症カフェに利用者も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催して、認知症の人と家族の会の支援をしている。認知症と家族の会に加盟しており、地域貢献活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族や自治会長に参加していたが、報告や意見交換を行うことでサービスの質の向上を目指している。	コロナ禍の緩和で、今年8月より対面で推進会議が再開出来た。11名の参加者で家族からの意見、運営状況やヒヤリハットの報告も出来た。今後の会議計画も進み、会議を活かした取り組みに向かっていく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、介護保険についてわからないことがあれば電話で聞いたりと協力関係を築いている。	ホーム長は「認知症チームオレンジ」のコーディネーターの指導者として活動中である。市の担当者とは主に電話連絡であるが、市からの「コロナクラスター対応、予防」についてzoom研修の受講参加をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設に侵入者などの危険がある場合以外は、玄関の施錠をしないことを基本にしている。ただし、入居者の怪我や事故につながる可能性がある場合はその限りではない。	身体拘束適正化委員会では全職員に「高齢者虐待テスト」を行い自己採点で確認し、啓発を行なっている。玄関施錠をしない基本方針の上で、行動制限にも柔軟な見守り強化で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法についての研修を受け、他の職員にも得た知識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見制度を利用している方がいるため、実地で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、又は改定の場合は家族の不安や疑問点がいつでも質問できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員と家族は密に連絡を取り合える環境が整っている。家族が来られた時には家族の意見を聞き、介護に反映させている。	家族会が年に1～2回あり、今年は利用者と職員で1泊旅行を計画中である。毎月担当職員が利用者の様子を手紙に書き「渚だより」も郵送している。体調変化や小さな出来事も電話や面会時に伝えて密に連絡を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	突発的な出来事や入居者の状況に応じてカンファレンスを行ったり、定期的なミーティングにより意見交換を行っている。	ユニット別で月1回ミーティングを行い、2ユニットの主任は職員の意見を大切に取入れ向き合っている。またホーム長は日常的に職員へ声掛け、直ぐに話し合える機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいと向上心が持てるよう、職場の環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験に応じたトレーニング、研修の参加により、レベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者による、勉強会等の活動により、ネットワークづくりやサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに本人と家族に来園して園内の見学をして頂き、疑問や不安を伺い、安心していただける信頼関係づくりに努めている。入居後も安心して生活していただける関係づくりに努めている。家族からは書類による情報収集も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに、本人と家族に心配事や要望を伺う。入居後もコミュニケーションをしっかりととり、本人が安心して生活していけるよう、一生関わっていく関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切な支援が、本人と家族に出来るように努めている。随時、話を伺い、必要とされる支援は何かを考えながらサービスにつなげていく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬と敬意をもって、本人と接するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の様子を報告し、意見をもらい、支援につなげていっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前行っていた美容院に、職員と一緒にに行っている。家族、孫がよく来てくれ、渚園は来やすいと言ってもらっている。	利用者の以前からの馴染みであった洋服屋さんが来訪され、希望の洋服を購入される利用者がある。靴もオーダーされる。自治会長は地元顔馴染みの入居者に会いに来られたり、話題を持つての交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居後、生活期間が長期になっている方々は、親戚のような家族関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院し、園に戻ることができないケースがあり、見舞いに行ったり、家族と連絡を取り、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の日常生活状況を把握し、普段の会話や本人の表情を観察し、今の思いを読み取れるように努めている。	面会時に利用者の元気な頃の様子を、家族から聴き取って把握している。困難な利用者には筆談や表情、仕草などにより今の思いを汲み取り、職員が情報を共有し「直ぐにどうするか」と寄り添った支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、馴染みの方、これまでのサービス提供者、病院等から話を伺い書類等にまとめ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日毎に、過ごし方や心身状態、有する力等の小さな変化を観察、把握に努め、全体へ共有することで一人ひとり把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変化する課題やケアのあり方について、申し送りやミーティング等で意見やアイデアを出し合い、必要な関係者への連絡、相談、話し合いを行って、最適な形で入居者に反映できるよう努めている。	本人と家族の意向、利用者の暮らしの情報に視点を置いた介護計画である。個別リハビリ支援計画には力を入れ、利用者の生活機能向上に繋がる良い結果へと反映されている。	モニタリング経過記録の更なる充実と、職員が共有して柔軟に取り組める記入様式の見直しを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録、日誌を記入し、一日2回申し送りを行っている。見直し等の際は申し送りノートを活用し、共有、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて、可能な限り柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社や公園、海、お店等に出かけたり、家族との面会や外出が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名のうち8名が訪問医療で体調を管理している。1名の方は、家族と入居前にかかっていた病院へ通院している。	協力医とも密な連携が図れており、24時間、夜間緊急時にもスムーズに医療が受けられるよう支援している。第1ユニット主任は看護師経験も豊かであり、利用者の体調変化や気付き等、いち早い対応は家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常のかかわりの中で気づいた事や心配な時は看護師等に連絡し、適切な指示をもらい支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際に安心して治療ができるよう、又、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の支援について、本人、家族と話し合いをしている。職員間で十分に話し合いを行い、共に支援に取り組んでいる。	職員の理解と意欲により、看取りの実績も有り、家族が安心出来る体制が継続されている。最終は病院でと言われても、ホームに戻って悔いのない看取りを願って職員は支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で伝え合って、緊急時に対して話し合い、実践力を身に付けるよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、様々な時間の災害を想定して訓練を行っている、避難経路について確認している。	事業所は津波災害での防災を課題とし、地域で避難体制や計画等情報収集に努め、見直しや改善出来る事への検討を進めている。その他防災に関しても慌てず動ける職員の体制を常に心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような声掛け対応を心掛けている。	個々の利用者にあった言葉掛けを常に意識し、丁寧に接している。「これで良かったですか?」と職員は疑問を話し合う機会が多く、利用者への人格の尊重を損ねない支援を常に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き取りながら、自己決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望等を重視しながら勧める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望等を聞き取りながら、入居者と職員と一緒に考えながらメニューや準備をしている。	利用者希望を優先のメニューとし、週3回の買い物は利用者と一緒に出掛け楽しんでいる。コロッケ希望には、材料を揃えて一緒に手作りする等家庭的な場面も多く、利用者の意欲が増進されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は、運動等の後には必ず取っていただくように心掛けてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方でもできるだけトイレでの排泄が可能となるよう工夫して誘導を行い、トイレでの排泄が維持できるように支援している。	入居後に車椅子から摺り立ちが出来、現在トイレでの排泄維持が出来る身体機能へと回復され、リハビリプランの良い成果が反映されている。二人介助の場合も定期的な時間誘導を続けて利用者本位の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ排便につながるように植物繊維の多い献立を意識し、ヨーグルト、牛乳、フルーツなどを多くとるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心に配慮しながら、入居者に合わせゆったりとした時間で入浴していただくように努めている。柚子、菖蒲を入れ、季節を感じてもらっている。	2ユニットが週3回曜日を交替の入浴である。全員肩まで湯に浸かって貰える様に、一般浴槽でも二人介助で支援している。入浴を嫌がる利用者には「肌の乾燥に薬を塗りましょう」と優しくタイミング良い声掛けで楽しい入浴に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度など調整を行い、心地よく休めるように支援している。夜間眠れない様子の時には、話に耳を傾けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表を作り、どの入居者が何を飲んでいて、どのような効果があるか確認している。嚥下の悪い人にはとろみをつけて服薬していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動に参加される方が少なくなっているが、盛り付けをしたり食器を拭いてもらったり、洗濯物を干したり畳んだり、個々に出来ることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも徐々に収まり、散歩花見を楽しむことが出来るようになった。	近隣のヨットハーバー迄は、唯一の散歩コースで海からの空気や自然を楽しめている。桜や紫陽花等の季節を感じる花見にも出掛け、以前の日常に少しずつ近づき楽しみの支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については事務所でやっているが、外出時などには本人にお金を渡して買い物が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるように支援している。手紙を書かれる方は季節の便箋やハガキを一緒に買いに行つて準備をし、書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はのれん等で季節感を出し、同時にクーラーの冷気の調節をしている。フロアもなるべく明るくするように電球を多くしてある。	夏場は季節感が味わえるように居室前に暖簾を付ける工夫をしている。両ユニットの床は手拭きにより、木の特質や匂いと空気感に気を付けている。中庭を囲むガラス越しの陽だまりは利用者が気分良く寛げる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関においてある椅子で外の景色を眺めたり、ソファに座ってテレビ鑑賞やカラオケ、隣の方とのおしゃべり等でゆったり過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族より持ち込まれた好きな物、思い出の物、写真等を見ながら笑顔でお話ししていただいている。	馴染みの家具が持ち込まれ、自分好みの安らぎの部屋である。落ち着いた障子付き部屋には、好みの品や思い出の白黒写真が大切に飾られ、掃除機も自分でかけ、自身の大切な家として居心地良い暮らしが伺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホール等、安全に移動できるようテーブルやいすの配置には留意している。不安なく生活が送れるよう工夫している。		